

2012年度

国立音楽大学大学院 音楽研究科 博士後期課程

学生募集要項

国立音楽大学

入学センター事務室

〒190-8520 立川市柏町5-5-1

TEL 042-535-9500

<http://www.kunitachi.ac.jp/>

本学の基本的理念

自由、自主、自律の精神を以て良識ある音楽家、教育者を育成し、日本および世界の文化の発展に寄与する。

目 次

1. 設置の趣旨(教育目標と人材育成の目標)・・・	3
2. 教育課程の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3. 教員組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	7
4. 専攻・領域と募集人員・・・・・・・・・・・・	11
5. 出願資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
6. 出願手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
7. 出願書類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
8. 受験票の送付・・・・・・・・・・・・・・・・	13
9. 試験科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
10. 選抜方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
11. 受験上の注意事項・・・・・・・・・・・・	14
12. 試験日程および試験会場・・・・・・・・	14
13. 合格発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
14. 入学手続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
15. 学生支援(サポート体制)・・・・・・・・	15

個人情報の取扱いについて

出願にあたって記入していただいた氏名・住所その他の個人情報は 出願・登録・選考、学事および学生生活に関する管理、連絡および手続き、本人および保証人宛に送付する各種書類等の発送、連絡およびこれらに付随する事務処理を行うために利用します。なお、いただいた個人情報は個人情報保護法に則った万全の体制で管理いたします。

1. 設置の趣旨（教育目標と人材育成の目標）

国立音楽大学では「日本、アジア、世界の様々な音楽を知り、幅広い視野に立って日本における西洋音楽のユニークな展開を図る」という教育目標を掲げ、文化的アイデンティティを意識した研究・教育を行っている。しかし今日、国際的観点から見ると、演奏家や作曲家には高度な演奏能力、創作能力を身につけると同時に、自己の演奏論や創作理論を構築、展開することが求められ、音楽学や音楽教育学の領域でも、国際的に有意義な問題提起のできる質の高い研究者を養成することが必要となっている。

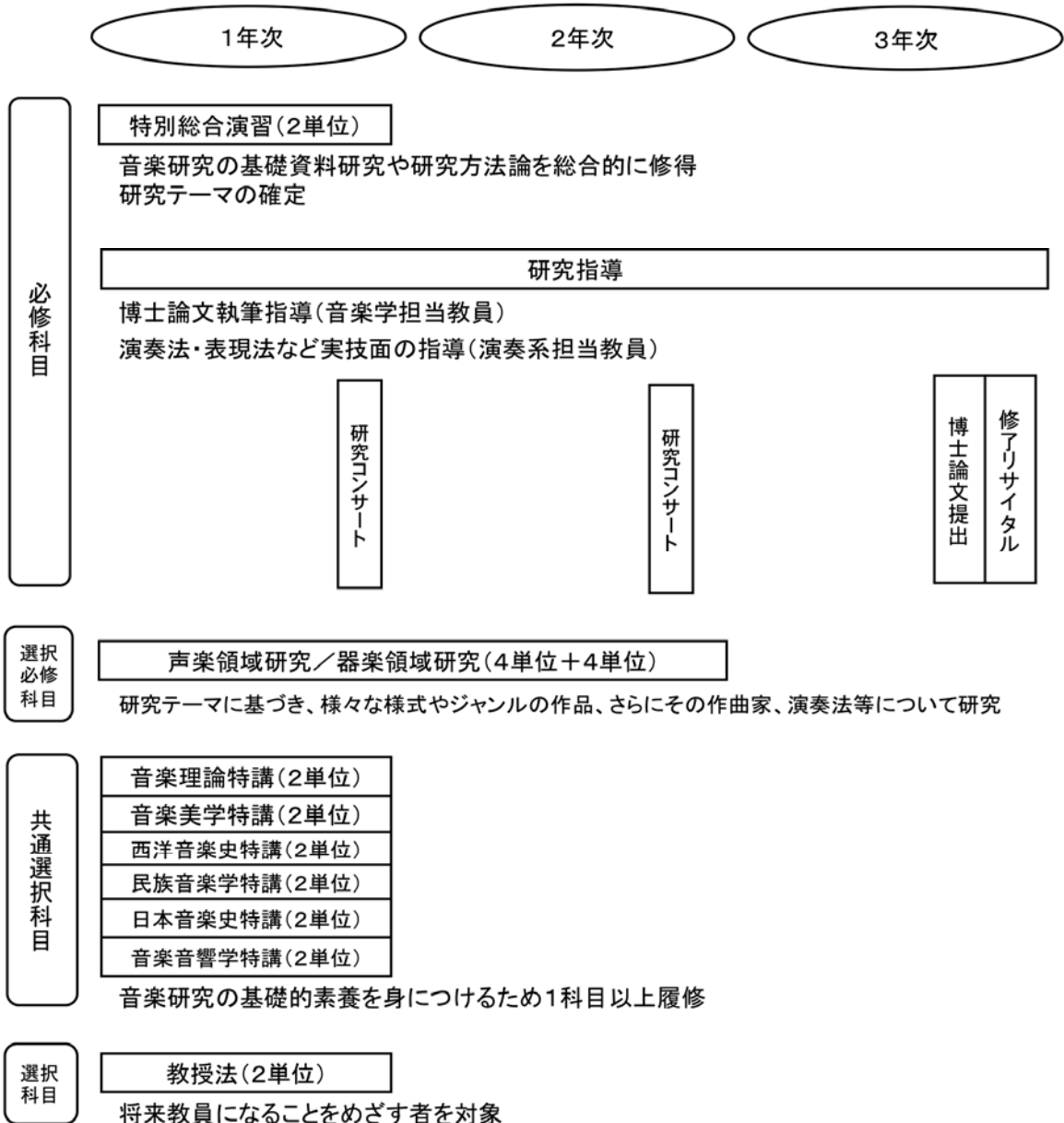
このような状況の中で、国際的に活躍できる演奏家・作曲家や、自立して研究を展開することのできる音楽学者・音楽教育学者を養成し、我が国の音楽文化の進展に寄与するために、本学大学院に音楽研究科博士後期課程を設置する。

2. 教育課程の概要

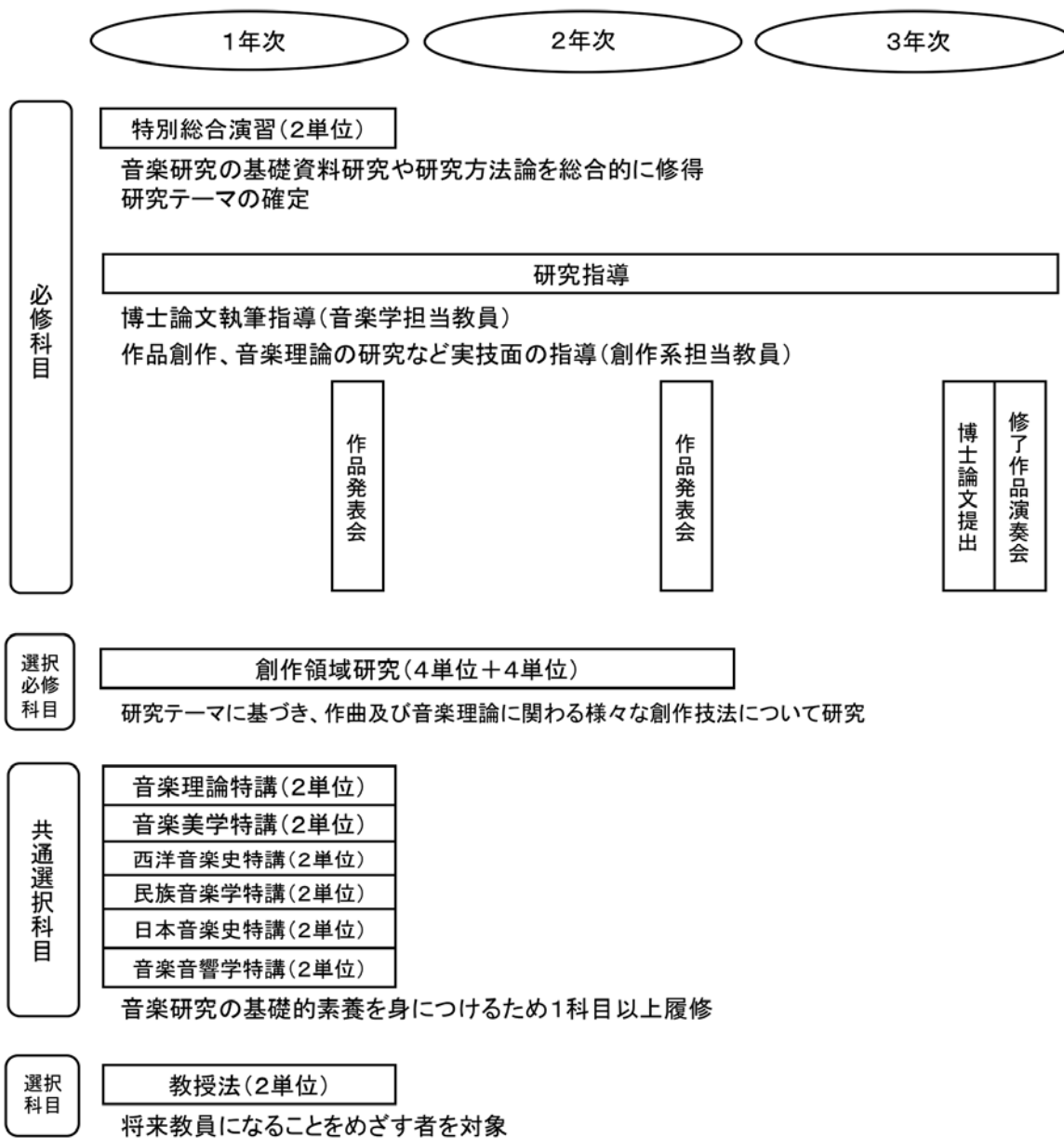
- 1) 音楽研究専攻の中に、声楽研究領域、器楽研究領域、創作研究領域、音楽学研究領域、音楽教育学研究領域という5つの研究領域を置く。
- 2) 日本の近現代音楽をすべての研究領域で取り上げ、明治以降の日本人による西洋音楽様式で創作された作品の演奏論や、邦楽器を用いた創作などの研究が幅広い視点から領域横断的に行われる。
- 3) キャリア・パスとして、TA（ティーチング・アシスタント）の研鑽を積むことができるほか、1年次に「教授法」（選択科目、2単位）を履修し、高等教育の担い手を目指す手助けとする。また、RA（リサーチ・アシスタント）となり、より高度な学術研究の担い手として、実践的に研究業務を行う機会を設けている。
- 4) 声楽研究領域、器楽研究領域、創作研究領域の研究指導については、それぞれ声楽、器楽、創作担当教員と音楽学担当教員の連携により、総合的な指導を行う体制とする。

取得学位：	博士（音楽）	Doctor of Musical Arts
	博士（音楽学）	Doctor of Philosophy in Musicology
	博士（音楽教育学）	Doctor of Philosophy in Music Education

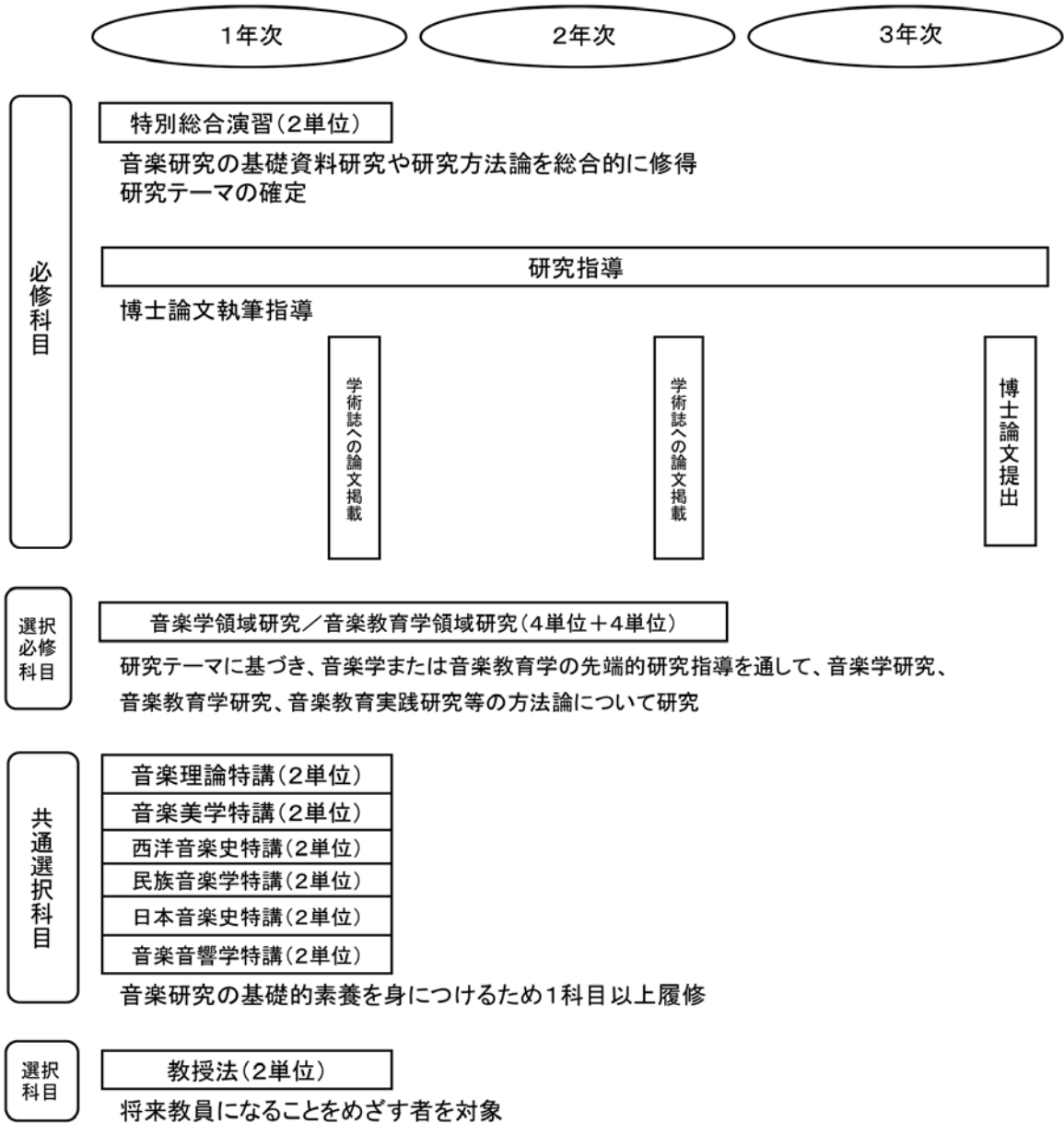
<声楽研究領域／器楽研究領域>



<創作研究領域>



<音楽学研究領域／音楽教育学研究領域>



3. 教員組織の概要

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
声 楽	教 授	秋 葉 京 子	オペラ作品、管弦楽付き声楽曲、宗教的声楽曲を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ声楽作品)等に関するテーマ
		秋 山 理 恵	フランス歌曲を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(フランス声楽作品)および、アンサンブル研究、声楽教授法、ディクッション等に関するテーマ
		大 倉 由 紀 枝	オペラ、オラトリオを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ、イタリア声楽作品)等に関するテーマ
		小 泉 恵 子	日本歌曲を中心とした演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究および、日本歌曲を中心とした日本近現代音楽研究等に関するテーマ
		小 林 一 男	オペラ作品を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ、イタリア声楽作品)および、日本のオペラを中心とした日本近現代音楽研究等に関するテーマ
	准 教 授	田 中 淑 恵	ドイツ・リート、宗教的声楽曲を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ声楽作品、宗教曲)および、アンサンブル研究、声楽教授法等に関するテーマ
		加 納 悦 子	オペラ、オラトリオを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ声楽作品)等に関するテーマ
		黒 田 博	オペラ作品を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ、イタリア声楽作品)等に関するテーマ
		下 原 千 恵 子	イタリア・オペラを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(イタリア声楽作品)、アンサンブル研究等に関するテーマ
		長 島 剛 子	ドイツ歌曲を中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(ドイツ声楽作品)、アンサンブル研究等に関するテーマ
福 井 敬	イタリア・オペラを中心とした声楽曲の演奏解釈論、演奏表現論、歌唱法、作品研究(イタリア声楽作品)等に関するテーマ		
器 楽 [ピアノ]	教 授	今 井 顕	ウィーン古典派、ロマン派のピアノ曲を中心とした演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、教授法等に関するテーマ
		渋 谷 淑 子	現代曲(ピアノとライブ・コンピュータの為の作品を含む)を中心としたピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究および、日本近現代音楽研究等に関するテーマ

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
器楽 [ピアノ]	教授	花岡千春	フランス近現代曲を中心としたピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、伴奏法(器楽、声楽)、ピアノおよび声楽作品を中心とした日本近現代音楽研究、アンサンブル研究等に関するテーマ
		星野明子	ロマン派を中心としたピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、声楽伴奏法等に関するテーマ
		三木香代	ショパンを中心とするピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究等に関するテーマ
		安井耕一	古典派、ロマン派を中心としたピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、伴奏法(声楽、器楽)、アンサンブル研究等に関するテーマ
	准教授	加藤一郎	ショパンを中心とするピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、演奏様式論、教授法等に関するテーマ
		近藤伸子	バッハ、現代を中心とするピアノ曲の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究(現代を含む)、演奏教授法等に関するテーマ
[弦楽器]	教授	大関博明	ヴァイオリンを中心とした弦楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽、オーケストラ)等に関するテーマ
		徳永二男	ヴァイオリンを中心とした弦楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽)、演奏教授法等に関するテーマ
[管楽器]	教授	大野良雄	ホルンを中心とした金管・打楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽、オーケストラ)、演奏教授法等に関するテーマ
		武田忠善	クラリネットを中心とした木管楽器作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、アンサンブル研究(室内楽)、演奏教授法、教授法(マスタークラス)等に関するテーマ
	准教授	生島 繁	クラリネット作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、演奏法等に関するテーマ
	客員教授	佐久間 由美子	フルート作品の演奏解釈論、演奏表現論、演奏技術論、作品研究、演奏法等に関するテーマ
創作	教授	北爪道夫	現代音楽の作品研究、作曲理論研究、分析論、管弦楽法、楽器法、様式研究および、邦楽器を用いた日本近現代音楽研究、作曲教授法等に関するテーマ
		山口博史	作品研究、作曲理論研究、分析論、管弦楽法、楽器法、音楽理論等に関するテーマ

2012年3月退職予定

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
創 作	専任講師	今 井 慎太郎	コンピュータ音楽作品研究、マルチメディア作品研究、作曲理論研究、分析論等に関するテーマ
		川 島 素 晴	現代音楽の作品研究、作曲理論研究、分析論、管弦楽法、楽器法、音楽理論等に関するテーマ
	非常勤講師	古 川 聖	コンピュータ音楽の作品研究、作曲理論研究、分析論等に関するテーマ

論文指導教員

教 授	磯 山 雅 久保田 慶一 庄 野 進 藤 本 一子	声楽・器楽・創作研究領域の論文指導教員
准教授	沼 口 隆	

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
音 楽 学	教 授	磯 山 雅	ドイツ音楽を中心とした音楽美学、音楽資料研究、音楽家研究、作品分析・解釈、演奏分析・解釈、音楽史研究(西洋)、音楽学教授法等に関するテーマ
		久保田 慶一	ドイツ音楽を中心とした音楽家研究、音楽資料論、作品分析・解釈、演奏分析・解釈、音楽史研究(西洋)等に関するテーマ
		阪 上 正 巳	精神医学に関わる音楽療法研究、音楽療法実践論等に関するテーマ
		庄 野 進	現代音楽を中心とした音楽美学、音楽家研究、作品分析・解釈、音楽史研究(西洋)、音楽メディア論、日本近現代音楽研究、音環境論、楽器学(電子)等に関するテーマ
		藤 本 一子	ドイツ音楽を中心とした音楽家研究、音楽資料論、作品分析・解釈、演奏分析・解釈、音楽史研究(西洋)等に関するテーマ
		横 井 雅 子	民族音楽学、民俗音楽学、音楽社会学、音楽史(西洋)等に関するテーマ
	准教授	沼 口 隆	ドイツ音楽を中心とした音楽家研究、音楽資料論、作品分析・解釈、演奏分析・解釈、音楽史研究(西洋)等に関するテーマ

2012年3月退職予定

研究領域	担当教員		指導内容(研究テーマ)
音楽学	准教授	森 太郎	楽器音響学、音楽音響学、調律法等に関するテーマ
	専任講師	中 溝 一 恵	楽器学、楽器資料論、音楽博物館論等に関するテーマ
	非常勤講師	塚 原 康 子	日本音楽に関するテーマ
音楽教育学	教授	神 原 雅 之	音楽教育研究(児童)、音楽教育実践論、音楽教育教授法等に関するテーマ
		塩 原 麻 里	音楽教育研究(音楽教育学、リトミック)、音楽教育実践論、音楽科教育法等に関するテーマ
		藤 沢 章 彦	音楽教育研究(学校教育)、音楽教育実践論、音楽科教育法等に関するテーマ
	准教授	江 崎 公 子	音楽教育研究(音楽教育史)、日本近現代音楽研究等に関するテーマ

2012年3月退職予定

4. 専攻・領域と募集人員

専攻	研究領域	募集人員
音楽研究	声楽	5名
	器楽	
	創作	
	音楽学	
	音楽教育学	

標準修業年限は3年です。

5. 出願資格

- 1) 修士の学位または専門職学位を有する者および入学までに取得見込みの者。
- 2) 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および入学までに授与される見込みの者、またはこれに準ずる者。
- 3) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者および入学までに取得見込みの者。
- 4) 文部科学大臣の指定した者。
- 5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、入学までに24歳に達する者。
5)により出願する者（上記1）～4)に該当しない者）は、事前に入学資格審査を行いますので、入学センター事務室までお問い合わせください。入学資格を認められた場合に限り、出願を認めます。（個別入学資格審査申請期間：2011年10月3日～12月9日）

6. 出願手続

- 1) 出願期間 2012年1月18日（水）～1月25日（水）消印有効
出願書類等を一括して郵便局の速達簡易書留にて下記までお送りください。上記期間内の郵便局の消印があるもののみ受け付けます。なお、大学の窓口では受け付けないのでご注意ください。
- 2) 入学検定料 42,000円
ゆうちょ銀行の郵便為替にして出願書類とともに提出してください。
いったん納入された入学検定料は返還いたしません。
- 3) 提出先 〒190-8520 東京都立川市柏町5-5-1
国立音楽大学入学センター事務室 博士課程出願係
TEL 042-535-9500

7. 出願書類

- 1) 入学願書*（本学所定用紙に必要事項を記入し、所定欄に写真を貼付）
- 2) 受験票*（本学所定用紙に必要事項を記入し、所定欄に写真を貼付）
- 3) 修士課程修了（または修了見込み）証明書
- 4) 成績証明書（修士課程のもの。ただし、本学大学院修士課程修了見込みの者は提出不要）
- 5) 推薦書（出身大学の指導教員が作成したもの 書式自由。ただし、本学大学院修了また

は修了見込みの者は提出不要)

6) 論文等の提出物

[声楽研究領域]

- ・ 修士論文、修士課程の課題研究報告または博士課程の研究テーマがそれらと異なる場合にはそのテーマに関わる論文(写し可)
ただし論文提出の場合は、要旨を添えること(写し可)
- ・ 研究テーマに関わる 30 分以上のプログラム(演奏審査用)
プログラムには、志願者氏名、研究テーマ、作曲者、曲名、各曲の演奏時間を正確に明記すること(書式自由)

[器楽研究領域]

- ・ 修士論文、修士課程の課題研究報告または博士課程の研究テーマがそれらと異なる場合にはそのテーマに関わる論文(写し可)
ただし論文提出の場合は、要旨を添えること(写し可)
- ・ 研究テーマに関わる 1 時間程度のプログラム(演奏審査用)
プログラムには、志願者氏名、研究テーマ、作曲者、曲名、各曲の演奏時間を正確に明記すること(書式自由)

[創作研究領域]

- ・ 修士論文、修士課程の課題研究報告または博士課程の研究テーマがそれらと異なる場合にはそのテーマに関わる論文(写し可)
ただし論文提出の場合は、要旨を添えること(写し可)
- ・ 研究テーマに関わる作品(作品審査用、提出作品の録音物を添えてもよい)

[音楽学研究領域・音楽教育学研究領域]

- ・ 修士論文またはそれに代わる論文(写し可)
- ・ 修士論文(またはそれに代わる論文)の要旨(写し可)

7) 写真

出願前 3 ヶ月以内に撮影したもの(正面、上半身、脱帽、背景なし)を 2 枚(縦 4 cm×横 3 cm)、願書と受験票に貼付してください。

8) 入学検定料

42,000 円の郵便為替(受取人氏名欄は記入しないこと)

9) 受験票返信用封筒

定形(長形 3 号)封筒の宛名に志願者の氏名、郵便番号、住所を明記し、350 円切手を貼付してください。志願者本人が 2012 年 2 月に居住、あるいは発送物が確実に届く住所を記入してください。

*印の書類は本学所定の用紙です。出願をされる方は本学入学センター事務室へ願書をご請求ください。(2011 年 11 月下旬より配布)

各提出書類に記入する氏名、生年月日は、戸籍と同一のものとします。(通称名、呼称は使用できません。)婚姻等により出願書類と各種証明書の氏名が異なる場合は、同一

人であることを証明する公文書を添付してください。外国籍で日本名を使用する場合は、外国人登録原票記載事項証明書を添付してください。

提出書類に不備があった場合には、受付できないことがあります。また、提出された書類は一切返却いたしません。

修士課程の課題研究報告、修士論文の提出に際し、修士課程修了時から年月が経過している等により本入試の出願までに研究が進展または内容に変更が生じている場合は、最近の研究内容を示すレポート等を添付することが望ましい。

論文等が日本語以外で執筆されている場合は、日本語訳を添付してください。

外国人留学生の志願者は上記以外にも必要な提出書類がありますので、お早めにお申し出ください。

8. 受験票の送付

上記の出願手続を行った者には、受験票および入試日程表を送付します。2月19日までに届かない場合は、入学センター事務室までお申し出ください。

9. 試験科目

声楽研究領域

- 1) 研究報告（修士論文、修士課程の課題研究報告または博士課程の研究テーマがそれらと異なる場合にはそのテーマに関わる論文）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90分]
- 3) 口述試験：研究報告、小論文に関して
- 4) 演奏審査：研究テーマに関わるプログラムより20分以上の演奏（演奏曲は当日試験場内において指定する＜曲の途中でカットする場合もある＞。演奏は全て暗譜。）
- 5) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より1カ国語（辞書持ち込み可）[60分]

器楽研究領域

- 1) 研究報告（修士論文、修士課程の課題研究報告または博士課程の研究テーマがそれらと異なる場合にはそのテーマに関わる論文）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90分]
- 3) 口述試験：研究報告、小論文に関して
- 4) 演奏審査：研究テーマに関わるプログラムより30分程度の演奏（演奏曲は当日試験場内において指定する＜曲の途中でカットする場合もある＞。演奏は全て暗譜、ただし、室内楽や不確実性を含む現代曲等の場合はこの限りではない。）
- 5) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より1カ国語（辞書持ち込み可）[60分]

創作研究領域

- 1) 研究報告（修士論文、修士課程の課題研究報告または博士課程の研究テーマがそれらと異なる場合にはそのテーマに関わる論文）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90分]
- 3) 口述試験：研究報告、小論文に関して
- 4) 作品審査：提出された研究テーマに関わる作品の審査
- 5) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より1カ国語（辞書持ち込み可）[60分]

音楽学研究領域

- 1) 論文審査（修士論文またはそれに代わる論文）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90 分]
- 3) 口述試験：修士論文、小論文に関して
- 4) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より 2 ヶ国語（辞書持ち込み可）[各 60 分]

音楽教育学研究領域

- 1) 論文審査（修士論文またはそれに代わる論文）
- 2) 小論文：博士後期課程における研究計画について [90 分]
- 3) 口述試験：修士論文、小論文に関して
- 4) 外国語：英語、独語、仏語、伊語より 2 ヶ国語（辞書持ち込み可）[各 60 分]

外国人留学生の場合は、すべての研究領域で外国語に替えて日本語とする。

10. 選抜方法

提出論文（作品）、演奏審査、研究計画、口述試験の審査結果および出願書類の内容に基づいて総合的に判定する。ただし、外国語が基準に満たない場合は合格対象外とする。

11. 受験上の注意事項

- 1) 受験の際は、常に受験票を携帯してください。
- 2) 試験当日の集合時間を厳守してください。試験開始時間に遅れた場合は受験資格を失います。
- 3) 時計のない試験場もあるので、時計（計時機能に限る）を持参してください。試験場および控室では携帯電話等の電源は切ってください。（時計として認めません。）
- 4) 試験会場等に変更が生じた場合は学内（本部棟北側掲示板）に掲示します。試験当日は必ず確認してください。
- 5) 外国語の試験で、辞書の持ち込み可能な場合は、各語学につき 1 冊のみとします。ただし、電子辞書は認めません。
- 6) 特に指定のない限り、電子機器の使用は認めません。
- 7) 試験内容に関する電話での問い合わせには応じられません。
- 8) 伴奏はピアノ伴奏のみとし、伴奏者は同伴してください。ただし伴奏者は、同入学試験の出願者でない者が望ましい。（試験日・時間が重なっても考慮はできません。）

12. 試験日程および試験会場

試験日程：2012 年 2 月 28 日（火）～3 月 1 日（木）

試験会場：国立音楽大学（東京都立川市柏町 5-5-1）

試験日程は、志願者数等によって変更する可能性があります。詳細については出願後に送付する入試日程表でお知らせします。

13. 合格発表

合格発表日：2012 年 3 月 8 日（木）午前 10 時

場所：本部棟北側掲示板

(注意) 電話等による問い合わせには応じられません。合格者には、合格発表と同時に受験票と引き替えに合格証を交付し、入学手続上必要な書類をお渡しします。

14. 入学手続

手続期間：2012年3月9日(金)～3月15日(木)

上記期間内に下記のを提出(納入)してください。

1) 納入金(下記納入金および「15. 学生支援」の項を参照)

2) 誓約書(保証人連署)

3) 修了証明書および成績証明書(大学院修了見込みで出願した者のみ)

期間内に手続きをしない場合は、棄権したものとみなし、入学を許可しません。

入学手続を完了した者が入学を辞退する場合は、返還申し込み期日(2012年3月26日)までに、事由を明らかにして所定の手続きをしてください。既納の納入金から入学金を除いた金額を返還します。なお、返還手続の最終期限は2012年3月31日ですが、新年度の授業運営準備のため、原則として2012年3月26日までに手続きを行ってください。

納入金(下記金額は2011年度のもので変更の可能性があります。)

(単位：円)

	初年度(年額)	次年度以降(年額)
入 学 金	50,000	
* 授業履修費	* 950,000	* 950,000
施設設備費	350,000	350,000
維持運営費	250,000	250,000
合 計	1,600,000	1,550,000

* 次項「15.学生支援」を参照してください。

納入金は前期、後期の2回分納になります。

15. 学生支援(サポート体制)

本学独自の奨学金

入学時の給付希望者に対して3年間、授業履修費(950,000円：2011年度実績)相当分の奨学金(返還不要)を受けることができます。奨学金給付希望の有無は入学願書の所定欄に記入してください。なお、希望しない場合のみ、その旨理由を記入してください。

奨学金の給付を受けた場合の初年度納入金は、次の通りです。

前期(入学手続時)	350,000円
後期(10月末日)	300,000円
合計	650,000円

留学制度

オーストリアのウィーン音楽・演劇大学と交換留学協定を締結しています。本学大学院に在籍したまま通常1年間留学し、そこで取得した単位を本学で履修した授業科目の単位とみなすこともできます。現在までに博士後期課程在籍者5名が留学しています。

(2011年5月現在)